

平成22年度事務事業評価表(平成21年度振り返り)

政策名 だれもがいいきき幸せに暮らせるまち

施策番号・名 16 保健医療の推進とスポーツの振興

基本事業番号・名 16-01 健康に関する知識の普及・啓発

事務事業番号	所管課係名 事務事業名	対象	事務事業の目的 (事務事業の対象、手段、意図)	対象指標 (対象の数値指標化)		活動指標 (手段の数値指標化)		成果指標 (意図したことの結果の数値指標化)		事業費 (実績額) ① (千円)	人件費 (理論値) ② (千円)	トータル コスト ①+② (千円)	改革・改善の余地 (目的妥当性・効率性・有効性・公平性から)		改革・改善の余地を踏まえた 平成23年度以降に向けた事務事業の方向性 (所管課長記入欄)						
				指標	実績値 (単位)	指標	実績値 (単位)	指標	実績値 (単位)				選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)					
16-01-01	健康課 保健サービス係  中高年健康相談事業	対象	18歳以上の市民及び、その家族で健康管理上の助言相談を希望する者	平成21年度	452 (人)	平成21年度	452 (人)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	157	平成21年度	404	平成21年度	561	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)		
		手段	生活習慣改善の動機づけを「足指力測定」「血管年齢測定」などの健康機器を活用して行い、健康に関する正しい知識の普及・個別相談実施。市民の健康不安の解消を図る。また適宜ほかの機関と連携を図り必要なサービスにつなげる。	平成20年度	341 (人)	平成20年度	341 (人)	平成20年度	100 (%)	平成20年度	337	平成20年度	356	平成20年度	693	22年度以降に向けた方向性	現状維持	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	市民が自分の健康について正しい知識を習得し、自己管理できるようにする。	平成19年度	527 (人)	平成19年度	527 (人)	平成19年度	100 (%)	平成19年度	248	平成19年度	434	平成19年度	682	健康に関する正しい知識を収集したり、個人に合った健康管理の方法に関する相談を受けることは、市民が自らの健康管理を実施するためには欠かせないものである。	健康増進法に基づく、市民の健康に関する個別性の高い相談の場として、出張等による市民ニーズに対応した相談を行う。				
		健康情報を提供した者の数管理上の助言を希望する者の割合	平成21年度	452 (人)	平成21年度	452 (人)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	157	平成21年度	404	平成21年度	561	健康に関する正しい知識を収集したり、個人に合った健康管理の方法に関する相談を受けることは、市民が自らの健康管理を実施するためには欠かせないものである。	健康増進法に基づく、市民の健康に関する個別性の高い相談の場として、出張等による市民ニーズに対応した相談を行う。					
16-01-02	健康課 保健サービス係  がん予防健康教育事業	対象	胃がん検診受診者	平成21年度	1,366 (人)	平成21年度	1,366 (人)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	179	平成21年度	243	平成21年度	422	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)		
		手段	胃がん検診待ち時間に行なう「がん予防の生活習慣」についての講話・展示・乳がんモデルを活用した自己触診法体験(女性全員) ・健康相談(希望者) ・他のがん検診のPR	平成20年度	1,454 (人)	平成20年度	1,454 (人)	平成20年度	100 (%)	平成20年度	138	平成20年度	222	平成20年度	360	22年度以降に向けた方向性	現状維持	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	市民へがん予防に関する正しい情報を提供し、健康の保持増進に役立ててもらう。	平成19年度	1,092 (人)	平成19年度	1,092 (人)	平成19年度	100 (%)	平成19年度	212	平成19年度	276	平成19年度	488	多くの市民の方に健康教育が実施できる場として有効な場である。がん予防対策としても、検診受診時の待ち合い時間を利用した健康教育は、効率のよい取り組みである。そのため、健康教育の内容が、ロコミで他の市民にも広がるような媒体の工夫・短時間で効率よくできる健康教育の内容を検討する必要がある。	がんは死亡原因の1位であり、予防教育が必要である。市民が集まる機会を捉えた効率的な健康教育を行うため、効果的な指導媒体による健康教育を行う。				
		健康教育の受講者数/検診受診者数	平成21年度	1,366 (人)	平成21年度	1,366 (人)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	179	平成21年度	243	平成21年度	422	多くの市民の方に健康教育が実施できる場として有効な場である。がん予防対策としても、検診受診時の待ち合い時間を利用した健康教育は、効率のよい取り組みである。そのため、健康教育の内容が、ロコミで他の市民にも広がるような媒体の工夫・短時間で効率よくできる健康教育の内容を検討する必要がある。	がんは死亡原因の1位であり、予防教育が必要である。市民が集まる機会を捉えた効率的な健康教育を行う。					
16-01-03	健康課 保健サービス係  食事相談事業	対象	食事相談希望の一般市民	平成21年度	111 (人)	平成21年度	97 (人)	平成21年度	87 (%)	平成21年度	149	平成21年度	635	平成21年度	784	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)		
		手段	乳幼児から高齢者まで栄養、食生活に関する相談に応じて助言、支援した。	平成20年度	136 (人)	平成20年度	108 (人)	平成20年度	79 (%)	平成20年度	466	平成20年度	326	平成20年度	792	22年度以降に向けた方向性	現状維持	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	離乳食の進め方や病気の予防の食事などの不安を解消し、助言することで食生活改善の促進を図る。	平成19年度	62 (人)	平成19年度	56 (人)	平成19年度	90 (%)	平成19年度	119	平成19年度	1,183	平成19年度	1,392	脂質異常や糖尿、高血圧など生活習慣病と呼ばれる病態の相談が増えている。既に服薬している者も多いが、病態や食事内容に対する正しい知識が知りたいというニーズが高い。引き続き市民一人一人に合った正しい食習慣が身に付くよう支援を行う。	従来の食事相談に加えて、無保険者等の健診後の保健指導として栄養面の食事相談を行うが、効果的な指導媒体による相談を行う。				
		自分に合った食事の内容が理解できた者の割合	平成21年度	97 (人)	平成21年度	97 (人)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	149	平成21年度	635	平成21年度	784	脂質異常や糖尿、高血圧など生活習慣病と呼ばれる病態の相談が増えている。既に服薬している者も多いが、病態や食事内容に対する正しい知識が知りたいというニーズが高い。引き続き市民一人一人に合った正しい食習慣が身に付くよう支援を行う。	従来の食事相談に加えて、無保険者等の健診後の保健指導として栄養面の食事相談を行うが、効果的な指導媒体による相談を行う。					
16-01-04	健康課 保健サービス係  わくわくウォーキング教室事業	対象	運動習慣のない市民	平成21年度	75 (人)	平成21年度	70 (人)	平成21年度	93 (%)	平成21年度	151	平成21年度	162	平成21年度	313	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)		
		手段	・年4回教室 ・市内のウォーキングコースを活用 ・運動指導士による効果的なウォーキング実技指導 ・自主グループなど地域活動や多様なウォーキングコース・イベント等の紹介	平成20年度	65 (人)	平成20年度	62 (人)	平成20年度	95 (%)	平成20年度	217	平成20年度	207	平成20年度	424	22年度以降に向けた方向性	現状維持	改善の余地	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	23年度以降に向けた方向性	廃止(完了・統合含む)
		意図	歩くことの楽しさを体験し、運動習慣獲得のきっかけづくりとなる。また、運動習慣継続のために、ウォーキング方法を獲得・地域活動の情報を提供。	平成19年度	84 (人)	平成19年度	78 (人)	平成19年度	93 (%)	平成19年度	218	平成19年度	237	平成19年度	455	ウォーキングを実施している他課・サークルが増加している中で、健康づくりとして健康課が実施する事業としての目的は果たされたのではないかと考察される。そのため22年度は事業終了とする。	他の類似事業で、目的が達成できるため廃止。				
		教室に参加して効果的なウォーキングの方法を知ることができたという感想をアンケートに記載する市民の数	平成21年度	70 (人)	平成21年度	70 (人)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	151	平成21年度	162	平成21年度	313	ウォーキングを実施している他課・サークルが増加している中で、健康づくりとして健康課が実施する事業としての目的は果たされたのではないかと考察される。そのため22年度は事業終了とする。	他の類似事業で、目的が達成できるため廃止。					
16-01-05	健康課 保健サービス係  女性の健康づくり事業	対象	①概ね更年期前の市民女性 ②骨粗しょう症健診受診または骨粗しょう症に興味のある市民女性	平成21年度	①5②42 (人)	平成21年度	①4②42 (人)	平成21年度	①80②100 (%)	平成21年度	192	平成21年度	132	平成21年度	324	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)		
		手段	①女性ホルモンの働きについての講話と足浴体験・リラックス体操 ②骨粗しょう症について医師から講演	平成20年度	24 (人)	平成20年度	16 (人)	平成20年度	93 (%)	平成20年度	180	平成20年度	158	平成20年度	338	22年度以降に向けた方向性	現状維持	改善の余地	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	「女性ホルモンと身体の変化」について正しい知識を得る。女性のライフサイクルにあった健康づくりに取り組むきっかけづくりになる。	平成19年度	0 (人)	平成19年度	0 (人)	平成19年度	0 (%)	平成19年度	0	平成19年度	0	平成19年度	0	①市民のニーズに対応した事業の実施を行う。 ②講演会の内容・時期の検討により参加者数増をめざす。	女性の健康づくりの視点が地域に広がるよに普及啓発を積極的に行う。				
		参加者アンケートで生活に取り入れられたという感想をもった市民の数/参加者数	平成21年度	42 (人)	平成21年度	42 (人)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	132	平成21年度	132	平成21年度	324	①市民のニーズに対応した事業の実施を行う。 ②講演会の内容・時期の検討により参加者数増をめざす。	女性の健康づくりの視点が地域に広がるよに普及啓発を積極的に行う。					

平成22年度事務事業評価表(平成21年度振り返り)

政策名 だれもがいいきき幸せに暮らせるまち

施策番号・名 16 保健医療の推進とスポーツの振興

基本事業番号・名 16-01 健康に関する知識の普及・啓発

事務事業番号	所管課係名		事務事業の目的 (事務事業の対象、手段、意図)	対象指標 (対象の数値指標化)		活動指標 (手段の数値指標化)		成果指標 (意図したことの結果の数値指標化)		事業費 (実績額)	人件費 (理論値)	トータル コスト	改革・改善の余地 (目的妥当性・効率性・有効性・公平性から)		改革・改善の余地を踏まえた 平成23年度以降に向けた事務事業の方向性 (所管課長記入欄)			
	事務事業名	対象		指標	実績値 (単位)	指標	実績値 (単位)	指標	実績値 (単位)				① (千円)	② (千円)	①+② (千円)	選択項目	説明(選択理由)	選択項目
16-01-06	健康課 保健サービス係	対象	健康づくりを推進するための関係機関・団体・市民代表からなる15名の委員	平成21年度		平成21年度		平成21年度		平成21年度	平成21年度	平成21年度	選択項目	説明(選択理由)		選択項目	説明(選択理由)	
	健康づくり推進協議会 事業	手段	年2回開催 わくわく健康プラン東くるめの推進について他	2 (回)		2 (件)		100 (%)	242	303	545	22年度以降に向けた方向性	現状維持	所管課長名:	健康課 田中百合子		23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	・市民の健康づくりの啓発及び各種事業の推進、健康づくり計画の調整・協議	1 (回)		1 (件)		100 (%)	81	504	585	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	市の健康増進計画「わくわく健康プラン」推進における進行管理をする協議会として機能を果たす。		市の健康増進計画「わくわく健康プラン」推進における進行管理をする協議会として機能を果たす。		
				1 (回)		1 (件)		100 (%)	121	504	625	健康づくりの進め方について、関係する組織・団体・市民のコンセンサスを取得して事業を推進し、効率化を図り、より多くの市民に効果的に健康づくりの認知を促すことができる。市の健康増進計画「わくわく健康プラン」推進における進行管理をする協議会として機能を果たす。						
16-01-07	健康課 保健サービス係	対象	市民	平成21年度		平成21年度		平成21年度		平成21年度	平成21年度	平成21年度	選択項目	説明(選択理由)		選択項目	説明(選択理由)	
	健康セミナー事業	手段	・年4回実施 ・糖尿・脂質異常・高血圧の予防に関するセミナーとクッキングを実施 ・自主グループなど地域活動を紹介することで、健康づくりの継続を促す。	133 (人)		111 (人)		83 (%)	481	646	1,127	22年度以降に向けた方向性	現状維持	所管課長名:	健康課 田中百合子		23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	生活習慣病予防について正しい知識を持つことで、市民の健康づくりの支援を行う。	163 (人)		161 (人)		99 (%)	450	297	747	改善の余地	<input checked="" type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	市民の健康度をより高めるための健康づくり事業として、地域の自主グループと連携した内容とする。		市民の健康度をより高めるための健康づくり事業として、地域の自主グループと連携した内容とする。		
											0	生活習慣病に関する正しい知識と予防に関する実践方法を伝え、生活に取り入れられるような内容にしている。理解が深められるようにセミナーとクッキングの2回セットとしたため、昨年度より全体の参加者数が減った。より多くの参加者を得るために広報や周知方法の工夫をしていく。						
16-01-08	健康課 予防係	対象	公立中学校生徒	平成21年度		平成21年度		平成21年度		平成21年度	平成21年度	平成21年度	選択項目	説明(選択理由)		選択項目	説明(選択理由)	
	薬物乱用防止推進事業	手段	市内公立中学校に薬物に関してのポスター・標語を募集し、表彰を行い、また地区協議会指導員による中学生等に対して啓発のため講演を行う。	2,273 (人)		1,243 (点)		54.7 (%)	30	303	333	22年度以降に向けた方向性	現状維持	所管課長名:	健康課 田中百合子		23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	薬物を使用することにより、肉体及び精神へ悪影響を与えることの等を周知する。	2,708 (人)		404 (点)		14.9 (%)	30	297	327	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	薬物乱用が社会問題化する中で、薬物乱用防止に関する関心が高まっておりポスター・標語の応募数が増えている。		東久留米市地区協議会指導員による、薬物乱用防止を目的とした自主活動を支援する。		
												薬物乱用が社会問題化する中で、薬物乱用防止に関する関心が高まっておりポスター・標語の応募数が増えている。						
16-01-09	健康課 保健サービス係	対象	市民	平成21年度		平成21年度		平成21年度		平成21年度	平成21年度	平成21年度	選択項目	説明(選択理由)		選択項目	説明(選択理由)	
	わくわく健康プラン 推進事業	手段	①既存の健康に関する取り組みの推進(アクションシート更新)②お宝プラン推進(「禁煙キャラバン わくわく」「わくわく健診応援隊」「わくわく健康サロン」「わくわく情報ネット」「野菜大好きプラン」「リバーサイド歩くるめ」)③広報活動検討	1,810 (人)		1,565 (人)		87 (%)	1,834	8,235	10,069	22年度以降に向けた方向性	現状維持	所管課長名:	健康課 田中百合子		23年度以降に向けた方向性	現状維持
		意図	市民一人一人が、生き生きと幸せに暮らせるように、健康で明るく活気に満ちた地域を目指す。	1,396 (人)		1,299 (人)		93 (%)	2,099	8,543	10,642	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	健康づくり推進部員や関係する組織・団体との連携強化により、広く健康づくり活動を行うことができる。また、市民との協働の活動を通して、市民ができること・行政が行うべきことを考え、様々な世代に活動を広げていくことができる。		健康づくり推進部会の推進体制は3期目となり、市民・関係団体・組織との協働による健康づくりが、より効果的に推進することで波及効果を期待し効果的な運営を行う。		
												健康づくり推進部員や関係する組織・団体との連携強化により、広く健康づくり活動を行うことができる。また、市民との協働の活動を通して、市民ができること・行政が行うべきことを考え、様々な世代に活動を広げていくことができる。						